＜歯学チーム＞

はじめに

歯学チームリーダー　俣木 志朗（東京医科歯科大学）

文部科学省先導的大学改革推進委託事業「医学・歯学教育の改善・充実に関する調査研究」歯学調査研究チームは、昨年度（平成 22 年度）、モデル・コア・カリキュラムの改訂作業を行った。今回の改訂の最も大きなポイントは、モデル・コア・カリキュラム本体中に「Ｆ　臨床実習」を単独領域として新設したことである。診療参加型臨床実習の一般目標、到達目標を明確化したことによって、モデル・コア・カリキュラムにおける臨床実習の位置づけがより明らかとなった。

歯科大学・歯学部の卒前に実施される臨床実習の充実・改善については、わが国の歯学教育の四半世紀に亘る課題である。昭和 62 年の「歯学教育の改善に関する調査研究協力者会議－最終まとめ－」には、「歯学教育の特質は臨床実習を重視し、これが体系的に組み込まれているところにある」とあり、「歯学教育における臨床実習は単なる知識の伝授ではなく、指導者の下で臨床実習という実践を通して知識技術を体得することのみならず、将来歯科医療に携わる者として不可欠な“態度”を体得し、倫理感を確立し、患者とのコミュニケーション技術を習得するために特に重要である。そこでは、特に教員との密度の濃い接触による体験的学習が重要であり、ここに少人数教育の重要性がある」と述べられている。

さらに、平成 8 年 6 月の 21 世紀医学・医療懇談会第 1 次報告では、「医療人は実習の中で患者に学びつつ成長していく」とし、「我が国における医療人育成において、最も改善を要するのは実習であり、医師及び歯科医師育成における臨床実習、薬剤師育成における実務実習、看護師育成における実習など、それぞれ飛躍的に充実させること必要がある」と提言している。

このような背景から、臨床実習の改善と充実を図る一連のシステムとして、共用試験システムのトライアルが開始され、平成 18 年度からの正式実施を経て、トライアル期間も含め、ほぼこの 10 年間で共用試験実施という枠組みは定着した。しかし、本来の目的である臨床実習の改善・充実という具体的な成果を得る段階には達していない。このような現状に鑑み、平成 21 年 1 月には「歯学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議」による「確かな臨床能力を備えた歯科医師養成方策」（第 1 次報告）の提言がなされ、それを受けて平成 22 年度先導的大学改革推進委託事業を通じて委託された歯学調査研究チームにより、歯学教育モデル・コア・カリキュラム－教育内容ガイドライン－（平成 22 年度改訂版）が完成された。

そこで、平成 23 年度は、平成 22 年度改訂歯学教育モデル・コア・カリキュラムに準拠した臨床実習のカリキュラム事例集（案）を策定し、その実施に向けて、各大学の現在の教育実態から実現可能な診療参加型臨床実習カリキュラムの立案および臨床実習カリキュラムの充実・改善を支援する事業を行った。

今年度の事業の骨子は以下の４つである。

１．平成 22 年度改訂歯学教育モデル・コア・カリキュラムに準拠した臨床実習のカリキュラム事例集（案）の策定
２．診療参加型臨床実習・臨床研修連携手帳（連携ログブック）の作成
３．国際的な視野からみた診療参加型臨床実習の実施状況、評価の実態および教育の質を保証するための評価の実態等について、大韓民国・オーストラリア訪問調査研究の実施
４．診療参加型臨床実習カリキュラムの立案・実施のためのワークショップ（ＷＳ）開催

ここに、平成 23 年度の歯学調査研究チームの事業をまとめたので報告する。

第 1 章では、平成 23 年 7 月 27 日に文部科学省主催「医学・歯学教育指導者のためのＷＳ」開催時に実施したアンケート調査の概要をまとめ、現在の各大学における臨床実習の実態、診療参加型臨床実習の実施するために克服すべき問題点を把握した。

第 2 章では、平成 22 年度改訂歯学教育モデル・コア・カリキュラムに準拠した臨床実習コアカリキュラム事例集（案）を掲載した。今回の策定作業では、まず診療参加型臨床実習、自験、介護および見学などの用語の定義を行ない、診療参加型臨床実習の改善の促進を図った。さらに、診療参加型臨床実習の実施を支援するために、実際にいくつかの大学で実践されているカリキュラムを参考にして、専門領域ごとに診療参加型臨床実習の方略と評価を具体的に明示した。

第 3 章では、臨床実習の実習履歴が記録でき、さらに卒前の臨床実習と卒後の臨床研修との連携を意図して作成した「診療参加型臨床実習・臨床研修連携手帳」の内容の抜粋を提示した。

第 4 章では、国際的な動向にも配慮し、大韓民国とオーストラリアにおける歯科臨床実習実施状況、卒業時の臨床能力評価方法および歯学教育認証機関の活動状況について訪問調査を行い、その結果をまとめた。

第 5 章では、全国 29 歯科大学・歯学部の臨床実習に関与する教員を一同に会して開催された「診療参加型臨床実習カリキュラムの立案・実施のためのＷＳ」の概要をまとめた。本ＷＳでは効果的な診療参加型臨床実習の取り組み事例の紹介とともに、今年度の歯学調査研究チームの事業のプロダクトとも言える、臨床実習コアカリキュラム事例集（案）および「診療参加型臨床実習・臨床研修連携手帳」（案）について熱心なグループ討議、全体討議が行われた。

今年度の目標に向けて我々が踏み出した第一歩は、小さな一歩ではあるかもしれないが、それは確実に望ましい方向に向かっていると自負している。

今後とも、関係各位のご理解とご協力をお願いする次第である。

研究組織

荒木　孝二　東京医科歯科大学大学院　教授

石田　達樹　社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構　事業部長

一戸　達也　東京歯科大学水道橋病院長　教授

大原　里子　文部科学省高等教育局医学教育課技術参与

中島　一郎　日本大学歯学部　教授

中嶋　正博　大阪歯科大学　准教授

長島　正　　大阪大学歯学部附属病院　准教授

奈良陽一郎　日本歯科大学生命歯学部　教授

○俣木　志朗　東京医科歯科大学大学院　教授

森尾　郁子　東京医科歯科大学大学院　教授

矢谷　博文　大阪大学大学院　教授

【オブザーバー】

江藤　一洋　社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構　副理事長

【班協力者】

魚島　勝美　新潟大学大学院　教授

小野　卓史　東京医科歯科大学大学院　教授

河野　文昭　徳島大学歯学部　教授

山本　松男　昭和大学歯学部　教授

（○：リーダー）

調査研究チームにおける活動状況

歯学チーム　「調査研究委員会」の開催状況

平成 23 年 7 月 8 日（金）15:00～16:30 歯学調査研究チーム会議（第１回）
場　所：東京医科歯科大学　歯科棟南４階　講師控え室
今年度の事業概要およびスケジュール、調査研究チームの役割分担、「文部科学省主催　医学・歯学教育指導者のための WS」の準備状況、その他

8 月 22 日（月）13：00～15：00　歯学調査研究チーム会議（第２回）
場　所：東京医科歯科大学　歯科棟南４階　演習室
平成２３年度医学・歯学教育指導者のための WS の報告、全国歯学部における臨床実習のアンケート調査結果、同グループプロダクトを基に、現状の問題点について意見交換。本事業の今後の進め方について協議。10 月上旬を目途に、「歯学教育モデル・コア・カリキュラム― 教育ガイドライン ―平成２２年度改訂版準拠　診療参加型臨床実習カリキュラム事例集（案）」を作成。作業：現行各大学の臨床実習カリキュラム資料閲覧（コピー希望票の記入）診療参加型臨床実習カリキュラム策定にあたり、参考となるカリキュラムの情報収集。資料作成に必要な部分はコピーを各委員に後日送付。その他

9 月 27 日（火）13:00～15:00　歯学調査研究チーム会議（第３回）
場　所：東京医科歯科大学　歯科棟南４階　演習室
「歯学教育モデル・コア・カリキュラム― 教育ガイドライン ―平成２２年度改訂版準拠　診療参加型臨床実習カリキュラム事例集（案）」、共通利用が可能な臨床実習記録帳（ログブック）の作成、「診療参加型実習」「自験」「介助」「見学」等の用語の整理、各担当部分の用語整理、内容の精選（締切期日 10 月 11 日）、診療参加型臨床実習カリキュラム立案・実施のためのワークショップ（案）について、その他

11 月 9 日（水）13:00～15:00　歯学調査研究チーム会議（第 4 回）
場　所：東京医科歯科大学　1 号館東 7 階　歯学部会議室
「歯学教育モデル・コア・カリキュラム― 教育ガイドライン ―平成２２年度改訂版準拠　診療参加型臨床実習カリキュラム事例集（案）」について、診療参加型臨床実習・臨床研修連携手帳（ログ・ブック）（目的、記載方式、内容、使用法、位置づけ等）について、「診療参加型臨床実習カリキュラム立案・実施のためのワークショップ」（案）（スケジュール概要）について、その他

12 月 1 日（木）13:00～15:00　歯学調査研究チーム会議（第 5 回）
場　所：東京医科歯科大学　歯科棟南 4 階　演習室
診療参加型臨床実習カリキュラム事例集（案）の内容確認、診療参加型臨床実習・臨床研修連携手帳（連携ログ・ブック）の校正作業を行い、「診療参加型臨床実習カリキュラム立案・実施のための WS（案）」（運営・進行、参加者グループ分け、役割分担等）の確認、その他

12 月 22 日（木）11:00～13:00　歯学調査研究チーム会議（第 6 回）
場　所：東京医科歯科大学　1 号館西 5 階　MD センター会議室
「診療参加型臨床実習カリキュラム立案・実施のための WS」（運営・進行、参加者グループ分け、役割分担等）の最終確認、海外調査について、その他

上記以外の開催状況

平成 23 年 12 月 22 日 13:00～24 日 12:00
「診療参加型臨床実習カリキュラム立案・実施のための WS」（東京医科歯科大学）

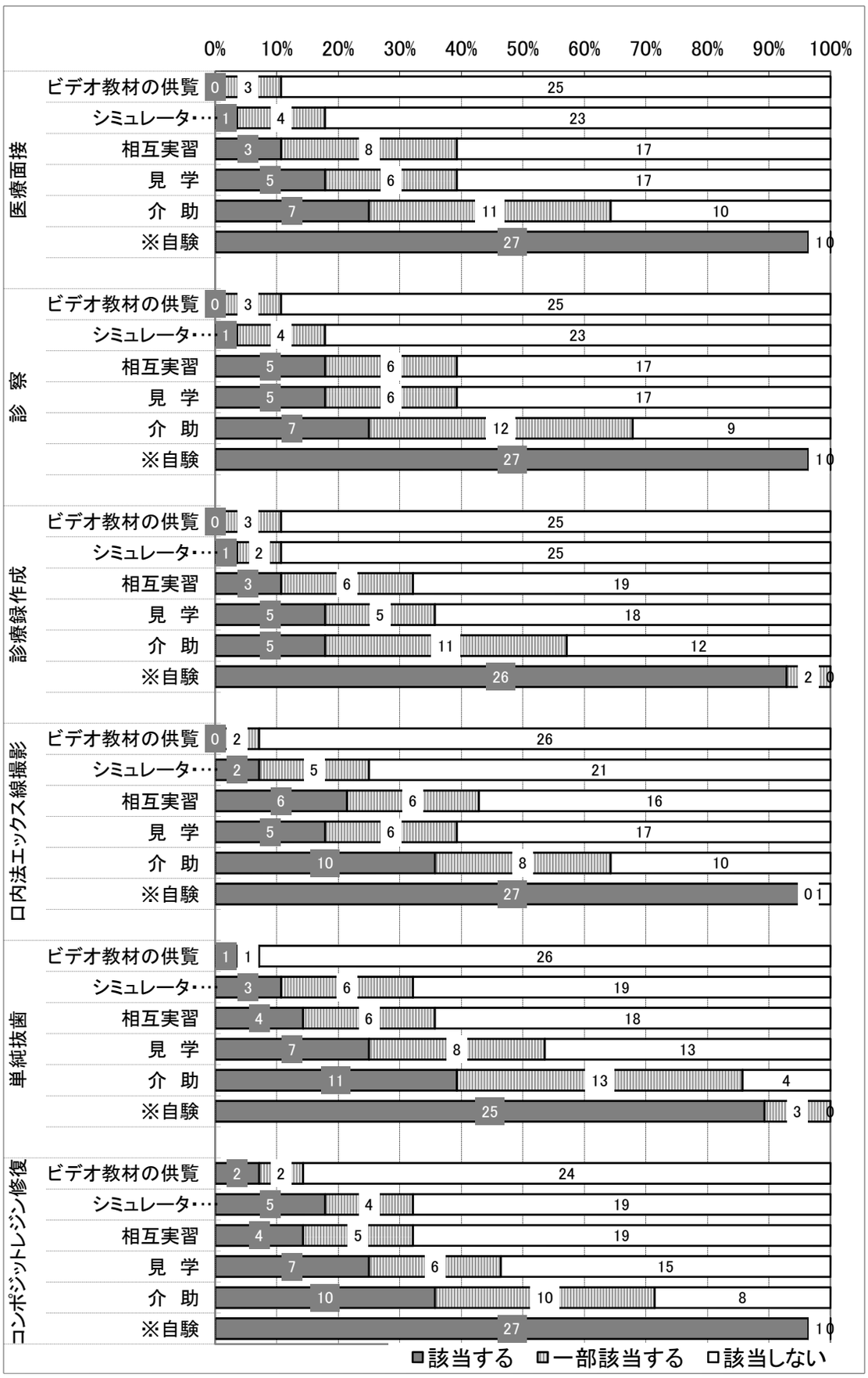
平成 24 年 2 月 5 日～8 日　韓国訪問　荒木孝二・魚島勝美・大原里子・中嶋正博（ソウル大学、延世大学、KIDEE 他）

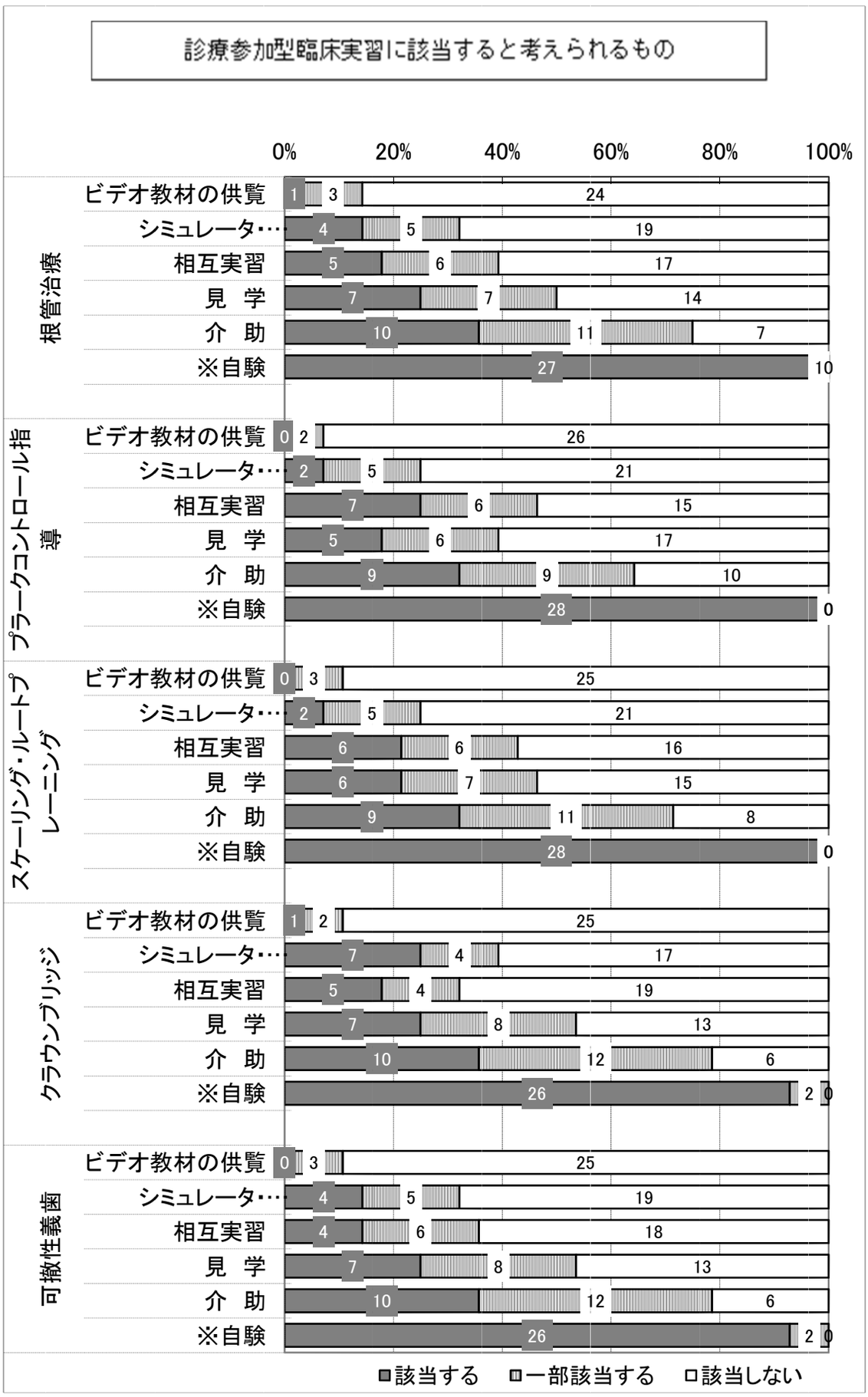
平成 24 年 3 月 5 日～9 日　オーストラリア訪問　俣木志朗・大原里子・森尾郁子　（メルボルン大学、Australian Dental Council 他）

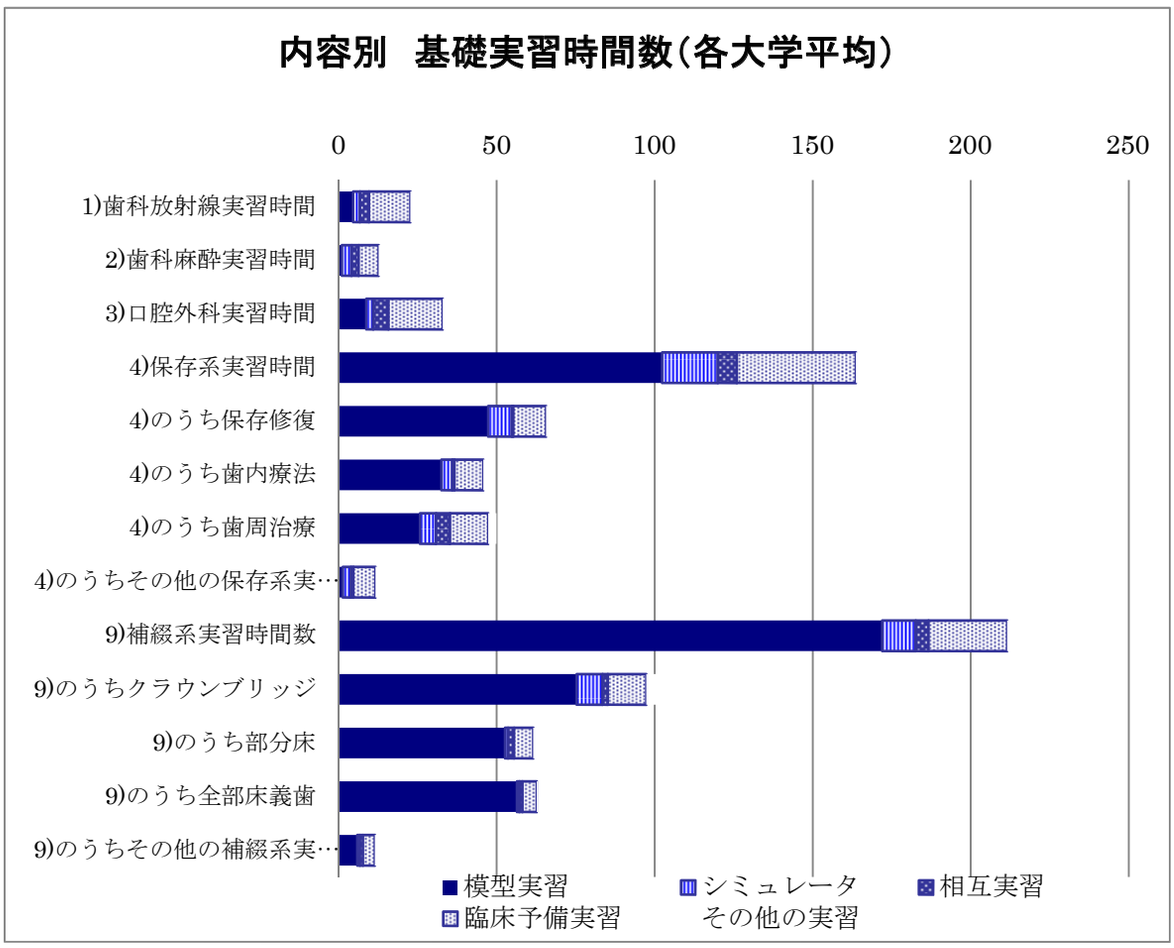
その他、随時、メールにて協議、調整を行なった。

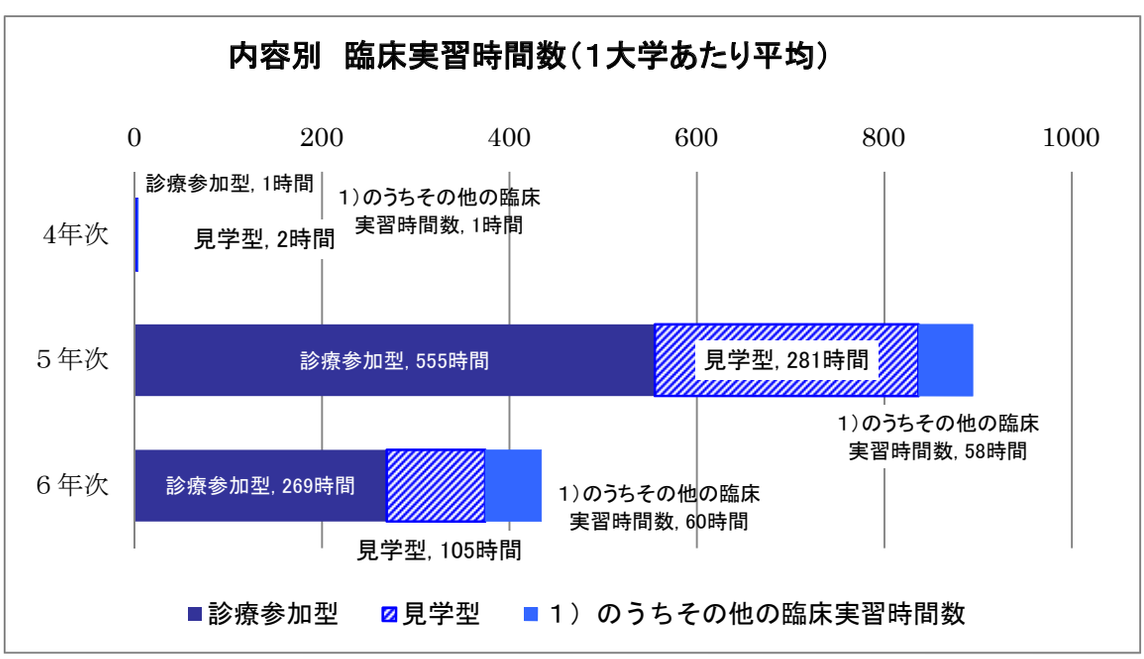
第１章　文部科学省主催「医学・歯学教育指導者のためのワークショップ」アンケート調査結果

診療参加型臨床実習に該当すると考えられるもの

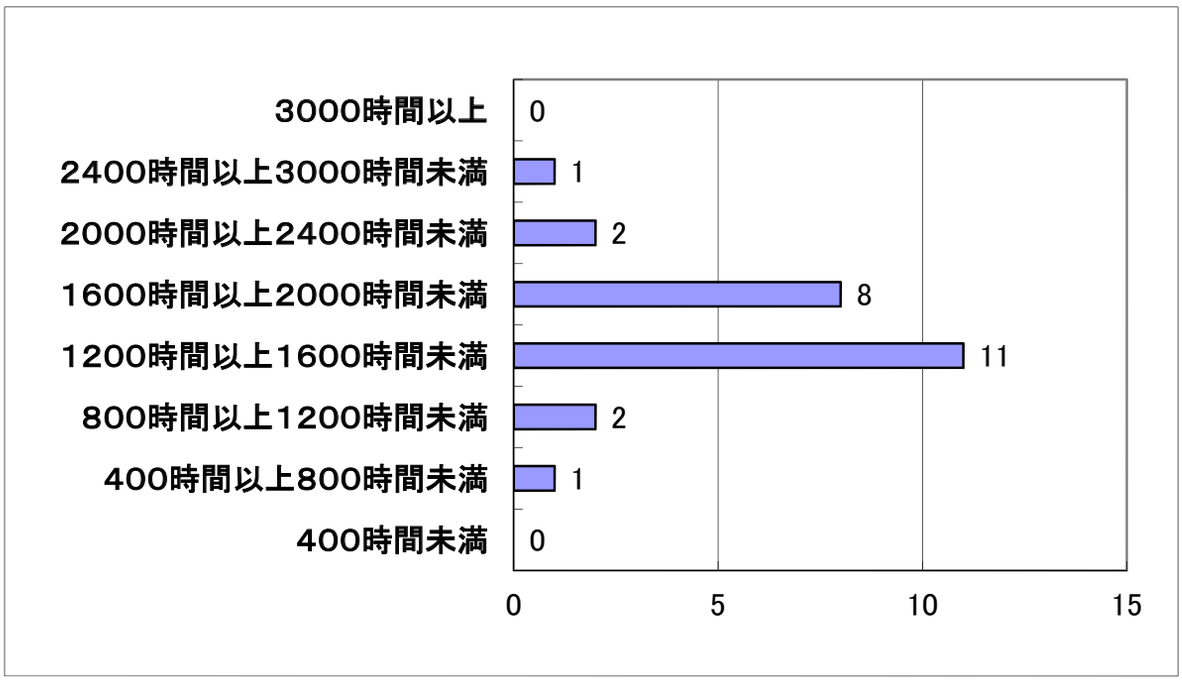



診療参加型臨床実習に該当すると考えられるもの
0%
20%
40%
60%
80%
100%
根管治療
ビデオ教材の供覧 1 3 24
シミュレータ… 4 5 19
相互実習 5 6 17
見 学 7 7 14
介 助 10 11 7
※自験 27 10
プラークコントロール指導
ビデオ教材の供覧 0 2 26
シミュレータ… 2 5 21
相互実習 7 6 15
見 学 5 6 17
介 助 9 9 10
※自験 28 0
スケーリング・ルートプレーニング
ビデオ教材の供覧 0 3 25
シミュレータ… 2 5 21
相互実習 6 6 16
見 学 6 7 15
介 助 9 11 8
※自験 28 0
クラウンブリッジ
ビデオ教材の供覧 1 2 25
シミュレータ… 7 4 17
相互実習 5 4 19
見 学 7 8 13
介 助 10 12 6
※自験 26 2 0
可撤性義歯
ビデオ教材の供覧 0 3 25
シミュレータ… 4 5 19
相互実習 4 6 18
見 学 7 8 13
介 助 10 12 6
※自験 26 2 0
該当する
一部該当する
該当しない

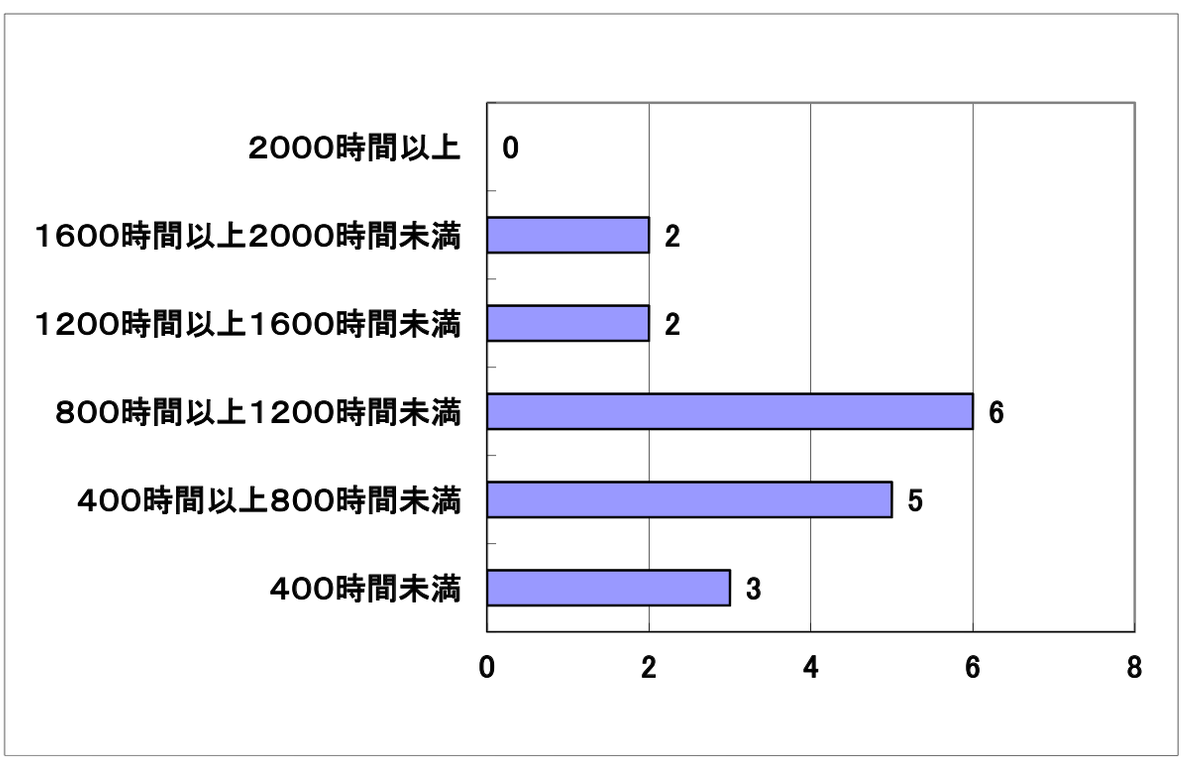

内容別　基礎実習時間数（各大学平均）
0
50
100
150
200
250
1)歯科放射線実習時間
2)歯科麻酔実習時間
3)口腔外科実習時間
4)保存系実習時間
4)のうち保存修復
4)のうち歯内療法
4)のうち歯周治療
4)のうちその他の保存系実…
9)補綴系実習時間数
9)のうちクラウンブリッジ
9)のうち部分床
9)のうち全部床義歯
9)のうちその他の補綴系実…
模型実習
シミュレータ
相互実習
臨床予備実習
その他の実習


内容別　臨床実習時間数（1大学あたり平均）
0
200
400
600
800
1000
4年次
診療参加型, 1時間
見学型, 2時間
1）のうちその他の臨床
実習時間数, 1時間
5年次
診療参加型, 555時間
見学型, 281時間
1）のうちその他の臨床
実習時間数, 58時間
6年次
診療参加型, 269時間
見学型, 105時間
1）のうちその他の臨床
実習時間数, 60時間
診療参加型
見学型
1）のうちその他の臨床実習時間数

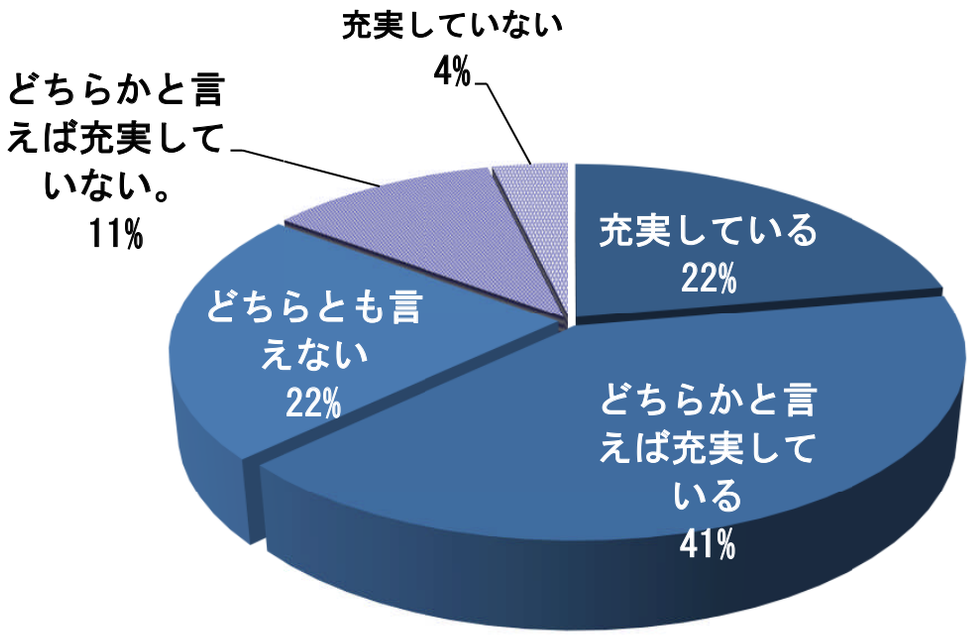
各大学の基礎模型実習時間数



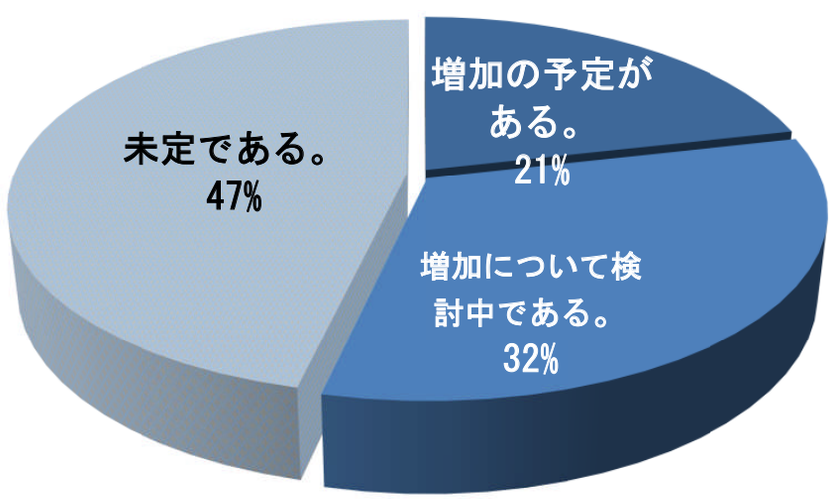
各大学の「診療参加型」臨床実施時間数



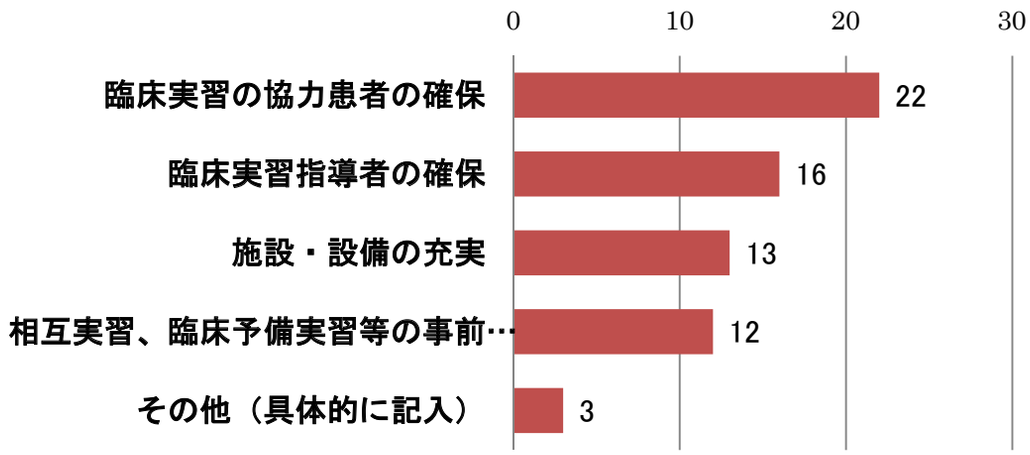
臨床実習の充実具合の自己評価



臨床実習の時間増の検討状況

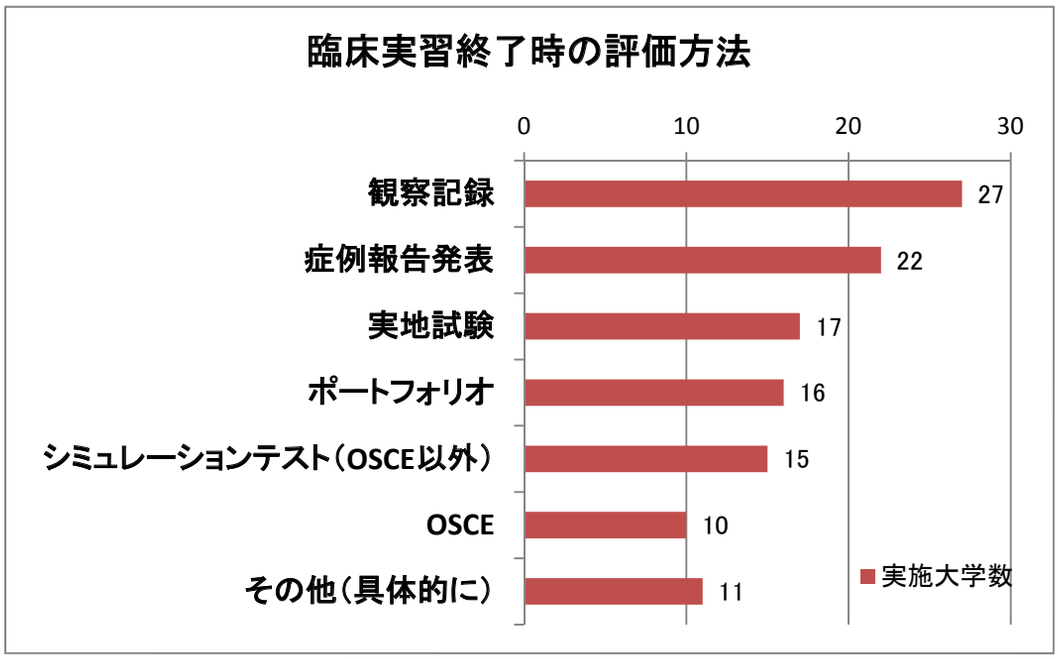


臨床実習の充実のための課題



＜「その他」の内容＞

- 限られた人的、物的資源の中で、病院診療収入増のための患者数確保と臨床実習の充実のためのユニット、患者の確保のバランスをどのようにすれば良いのか、綿密なシミュレーションが必要と思われる。
- 古くなった学生専用歯科用チェアー更新のための予算の獲得
- 臨床実習協力患者の歯科医学教育への寄与を通じた社会貢献に対するインセンティブ、診療費用の免除など。
- 地域の歯科医院や医科病院との連携
- 指導医の質の確保
- 臨床実習における到達目標の明瞭化
- 附属病院における実習設備の整備
- 教育に関する教員評価

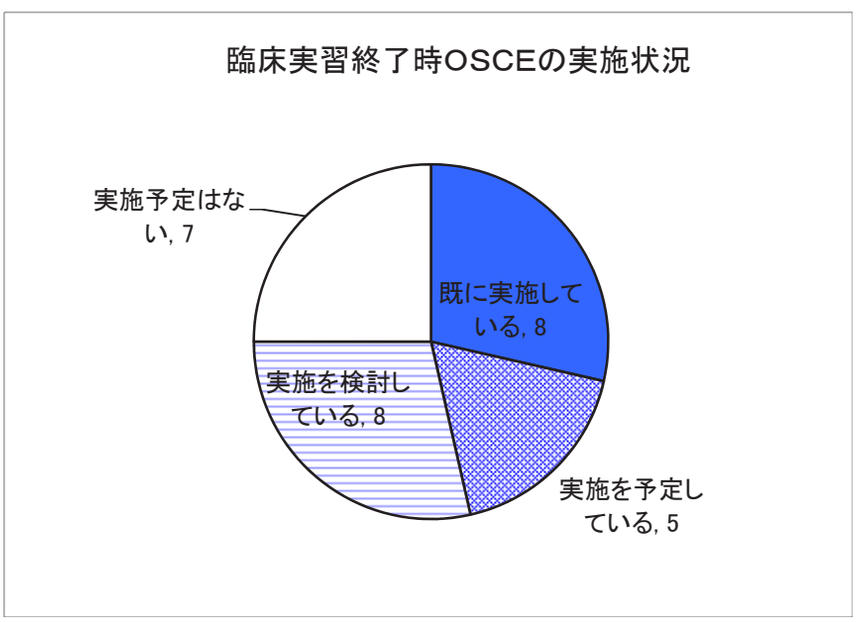


＜その他の内容＞

- 本学では１口腔１単位を臨床教育の理念として掲げており、臨床実習修了時には自験した患者症例を基にした口頭試問を実施し、症例に対する総合的理解力を試験している。
- 臨床実習採点表：　各専門診療室に係る診療での自験の症例数とそれに伴う点数（合計点が 400 点以上）
- プロブレムリストの作成，口頭試問，ペーパーテスト，シミュレータ・マネキン模型による実習
- 教授による最終臨床実習試験を行っている。
- 臨床実習レポートおよび口頭試問
- 教授口頭試問
- 講座毎の定期試験（ペーパー試験）
- リクアイアメントの修了判定に各科で評価法にできるだけ実施試験を取り入れるようにしているが、診療科によって実施内容が異なる。観察記録、実地試験、症例報告、ポートフォリオ、シミュレーションテスト、口頭試問などで総合的に評価している。
- レポート、口頭試問、客観試験
- 出席，ケースポイント
- 口頭試問（教授試問）、教授診
- 症例数、レポート、口頭試問、講義出席率
- 保存科にてプロトコール作成と口頭試問の実施指導医の監督下の診療を行うケース３２項目を行い評価を受ける，450 回以上の診療参加の２項目を臨

床実習修了の必須とする

- 患者担当ケース、実施ケース、見学ケース、症例レポート、論述試験、態度評価、初診患者の治療方針作成
- 口頭試問、多肢選択問題試験、症例ケース数なども評価項目としている。
- 実技ケース、症例見学、介補、初診見学、レポートを必須とし、その姿勢や実習の内容およびケース数を評価し、さらに筆記試験、口頭試問を行って評価する
- 知識は筆記試験、態度は観察記録、技能は診療実施状況を集計して、臨床実習評価とする。



臨床実習終了時OSCE実施中または実施予定の場合の実施開始（予定）年度

平成18年度（2006年度）以前	1
平成19年度（2007年度）	0
平成20年度（2008年度）	0
平成21年度（2009年度）	1
平成22年度（2010年度）	5
平成23年度（2011年度）	2
平成24年度（2012年度）	2
平成25年度（2013年度）以降	1